



**DANCE BRIDGE**  
international

**ダンスブリッジ**  
インターナショナル

Let's make the body a bridge and cross to everybody's heart.

**PART 1** 10/18sat-19sun **PART 2** 11/1sat-2sun **PART 3** 11/8sat-9sun **PART 4** 11/22sat-23sun  
saturday 19:00 ※終了後トークあり、sunday 14:00・19:00 (全公演共通・開場は30分前)

新宿フィールド・ミュージアム  参加  神楽坂まち飛びフェスタ 2014 参加

**PART 1** 2014.10.18 sat 19:00 <sup>アフター</sup> トーク **19** sun 14:00/18:00



**ニナ・ディプラ『Une attraction invisible』**  
13世紀のペルシャの神秘主義者ルーミーの詩にインスパイアされた作品。終わりのないぐるぐると巡回するレースは、観客を時間や空間が異なる次元への旅へと誘っていきます。ルーミーの神秘的な詩を基にした作業は、イスラム教の修行者(デルビッシュ)のように終わることのない動きを創り出していきます。

ギリシャ・テッサロニキ生まれ。1980'85年ギリシャ代表新体操メンバー。母国でバレエを始め、仏カンヌの国立ダンス学校、独エッセンにあるピナ・バウシュの学校、folkvank芸術大学で学ぶ。ピナ・バウシュの『春の祭典』にもダンサーとして参加。99年以降、様々な振付家や音楽家と共同して作品を上演。またピナ・バウシュのヴァッパートル舞踊団でオペラ再演のアシスタントを務める。現在パリを拠点に、若手ダンサーの指導や振付を担当するとともに、仏国内外でカロリン・カールソン、ジョセフ・ナジなど多数の振付家との共同創作やソロ作品を創作、ダンサーとしての活動も精力的に行っている。2013年度「ダンスブリッジ」公演に出演。



**藤田善宏『ちゃんちゃら』**  
出演/ニヴァンテ(藤田善宏、村田正樹)  
【ちゃんちゃら - おかし・い】:身のほど知らずで、噴き出したくなるほどおかし。笑止千万だ。まったく滑稽だ。(三省堂 大辞林より)  
「ちゃら」という言葉の響きが好きです。ちゃらほら、ちゃらける、ちゃらんぼらん。「ちゃら」って、でたらめ、で、でまかせ、で、ちゃらぼこ、の意味だそうです。なんだかまるでボク達のようにして。まあ、なんというか、そんな感じのおちゃらけた作品になるかも。です。

藤田善宏(フジタ ヨシヒロ) 福井県出身。福井県立高志高等学校、群馬大学教育学部美術科卒業。コンテンポラリーダンスに分類される近藤良平主催のダンスカンパニー「コンドルズ」に1996年の立ち上げから参加、その全作品の振付補佐を担当している。また、その他の振付として、プロレスラー永田裕志選手の「ナガダンス」、日テレ「アイドルの穴」MV、大塚愛のMV、矢井田瞳のMV、フジTV「かくし芸大会」なども手がける。「バルコプロデュース」空白に落ちた男」、NODA・MAP「ハイパー」、グローブ座プロデュース「中の人」などに客演。NHK総合「サラリーマン NEO」内「テレビサラリーマン体操」に近藤良平らとレギュラー出演。2013年、「日常生活へのダンスの浸透」をモットーに、プロデュースユニット「CAT-A-TAC / キャットアタック」を立ち上げ、独自の活動も始めている。  
村田正樹(ムラタ マサキ) 宮城県出身。高校時代にHIP HOPダンスをはじめ24歳の時、仙台でTAPDANCEを始める。その後上京し、タップダンサー熊谷和徳に師事。KAZ TAP companyのオリジナルメンバーとして、日本全国、またアジアでのフェスなど様々な舞台に出演。



**太田ゆかり『Frame -solo-』**  
2014年9月のグループ新作「Frame」からのソロ作品。  
身体、空間、音のフレームが離れたたり、近づいたり…幾重にも重なり変容していく…そこからリズムが生まれる。  
フレームは、見る角度により無数に形を変えていく。  
目に見える境界線から目に見えない境界線。  
ソロでは、より細部に焦点を当て、内側のフレームを探る。  
inside body...rhythm...space...

1969年東京生まれ。幼少より舞踊を始める。様々な舞台活動を経て、コンテンポラリーダンスを学ぶ為、93-96年渡仏。パリにて、ピーター・ゴスらに師事。99-11年 Dance Theatre LUDENS 所属。カンパニー設立より12年間の全作品に出演し、国内をはじめ数多くの国際ダンス・フェスティバル等、全ツアーに参加。02年よりダンサーに加え、アシスタント・ディレクターとして演出・振付補佐を務めた。現在は、フリーで活動。自作にて演出・振付も手掛ける。音楽家とのコラボレーションのシリーズ化やアラン・ミシャールら海外の振付家の作品にも出演するなど活動の場を拡げている。またワークショップ等の講師として、アライメントを重視した独自のテクニックを体系化し指導にあたる。ダンスを通してヨガと出会い、06年よりヨガ指導も行う。

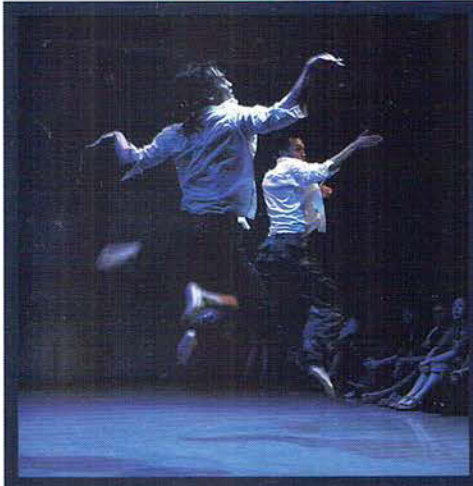
◆ニナ・ディプラワークショップ◆10月21〜24日開催!  
詳細はweb、チラシで追ってお知らせします!

Photo by BOZZO

野球やサッカーの世界と同じように日本人の海外遠征も多く行なわれ、インターナショナルという言葉の位置づけが変わったように思います。どちらにせよ作品を創る側、ダンスを踊る側にとっては、現時点の「リアルな時間」が大切だと思います。今、何を創り、踊るのか。皆同じ地点に立っていることは間違いありません。世界との距離が、ネットによってあたかも近くなったかのように変容する世の中においても、踊る舞台があり、人々は表現する



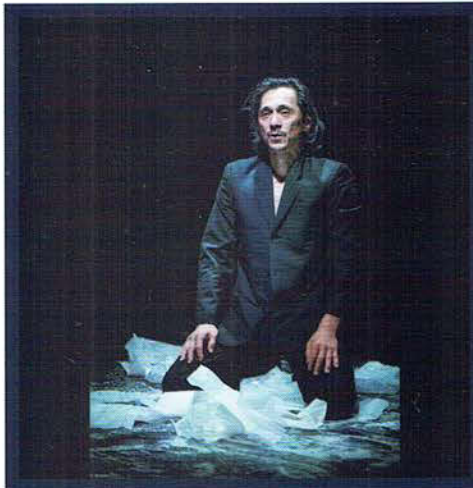
**PART 2** 2014.11.1 sat 19:00 アフタートーク **2** sun 14:00/18:00



**近藤良平『正直者は笑い死に』**

出演/笠井瑞丈、近藤良平  
 場所に、合わせるのではなく、われわれに、ついてこい!!  
 と言わんばかりのダンスを繰り広げたい。わがままばかりのおかしな二人。

1968年生まれ。ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。横浜国立大学在学中にダンスを始める。96年セッションハウスで「コンドルズ」を旗揚げし、国内外で公演活動を展開。NHK教育テレビ「からだであそぼ」をはじめ、ミュージカル、演劇、コンサート、CMなどジャンルを問わず活躍中。2003年に舞踊批評家協会新人賞、05年に朝日舞台芸術賞・寺山修司賞、09年に日本ダンスフォーラム賞を受賞。横浜国立大学、多摩美術大学、立教大学、桜美林大学などで非常勤講師。セッションハウスでもダンス・クラス講師、「リング企画」芸術監督を務めている。

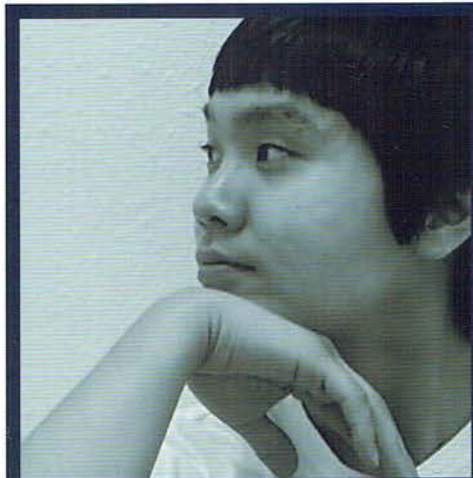


**川口隆夫『少年』**

原作/川端康成、演出/劉亮延(リュウ・リャンイェン、台湾)、振付・出演/川口隆夫(2014年4月アゴラ劇場初演)  
 映像/前田真二郎

「私はお前を恋していた。お前も私を恋していたと言ってよい。」川端康成は50歳で全集の刊行を機に中高時代の日記や手紙を引っ張り出して読み返してみた。するとそこには、ある少年との赤裸々な愛の記録が綴られていた…。

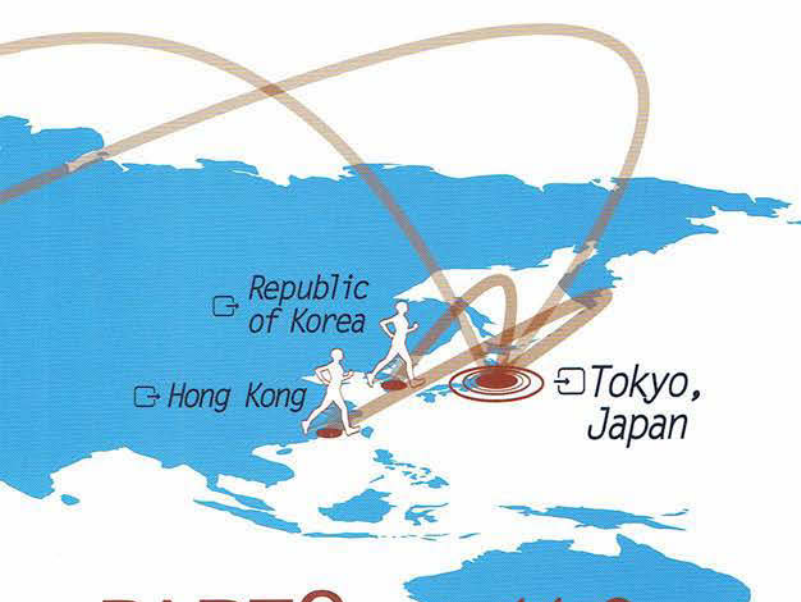
大学時代よりパントマイムを基礎としたムーブメントシアターのテクニック<ミーム>を学ぶ。スペイン留学を経て、1990年よりダンスカンパニーATA DANCEを吉福敦子と共同で主宰し、多くのダンス作品を発表する。1996年からはパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。並行して2000年より『世界の中心』(2000年、NEXTダンス・フェスティバル)で独自にソロを活動を開始。特に03年以降は音楽とアートの領域をまたぐアーティスト/パフォーマーとのコラボレーションを行い、ダンスでも演劇でもない、まさに「パフォーマンス」としか言いようのない(朝日新聞評2005年3月12日、評論家・石井達朗氏)作品を発表している。その他に、1995~99年まで東京国際レズビアン&ゲイ映画祭のディレクターを務める。2009年度セッションハウス・レジデンス・アーティスト。



**ユ・ホシク『wake up』**

混乱を感じる時がある。  
 常に理想と現実の間で。。。。  
 昼と夜が交差することのように理想と現実が毎日形を変えながら共存している。  
 現実が理想のように感じられ理想が現実のようだ。  
 それで人々が言う無謀な夢から起きられないかも。。。。  
 私は、知りたい。今私が感じる夢は何なのかを？

デザインレームブメント・カンパニー代表・芸術監督・振付家、GSDF代表及び芸術監督。慶北芸術高等学校と漢陽大学で現代舞踊を専攻、2006年韓国舞踊協会が主催の全国新人舞踊競演大会で<金賞>を受賞、兵役特例者として選定されることをきっかけに、韓国を代表する実力派ダンサーとして立地を固めた。2009・10年韓国文化芸術委員会がヤングアートフロンティアに選定され、09年アメリカ研修助成金を受け、10年にはユ・ホシク・ダンスプロジェクト設立公演のための助成金を受け。07年には全国次世代振付家競演大会で優秀作品賞、08年に若手振付家創作公演で最優秀振付家賞を受賞した。09年、この受賞作品で日本福岡ダンス・フリンジ・フェスティバルに招請され福岡フリンジ賞を受賞、13年には同フェスティバルで観客賞を受賞。



ことで交流しあいます。インターナショナルな試みに新しいも古いありません。ただその時出会う新しいものに遭遇する我々出演者、お客様も含めて、ここからまた、始まっていくのです。

さあ、されどしかりインターナショナルにダンスを突き進みましょう。

70億人とのココロの距離をうめていきましょう。

プログラム監修+出演：近藤良平

# PART3 2014.11.8 sat 19:00 アフタートーク 9 sun 14:00/18:00

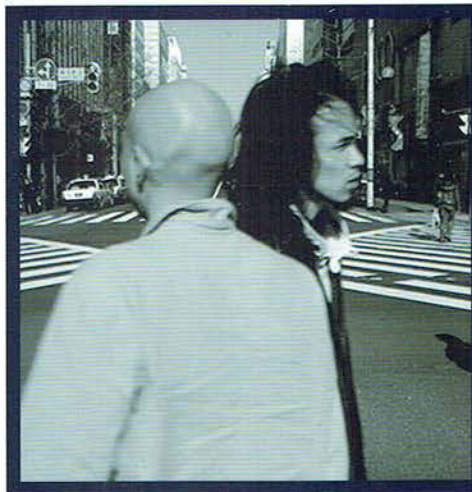


## 松本大樹&アンディ・ウォン『樹林の舞 vol.10』

10年目がとうとうやって来ました。家族にも、友だちにもみせてない自分の踊りの10年間の変化をデュオなのでたった一人のダンスパートナーだけがよくわかっている。アンディは、以前ダンス雑誌か何かのコメントで僕をソウルメイトと言ってくれていたことがある。彼ほど敏感でない自分には未だ判断しかねるけど、確かに互いのこだわりや創作上何から優先してとりかかるところなく目撃し、何から捨てるかも体感し、長い時間をかけて共通の琴線感覚を育ててきた。僕はアンディの感性に育てられ鍛えられた。その10年の積み重ねが皆さんにも届くだろうか。

松本大樹は多摩美術大学卒業。英国ラバンセンターにてディプロマ取得。1999年香港に渡る。2002年、第38回香港学校舞踊節優等賞受賞。09年文化庁の研修でニューヨークにてリモン・テクニクを学ぶ。東洋大学、多摩美術大学、鳥取大学非常勤講師、日本工学院講師。

共同振付のアンディ・ウォンは、香港アカデミー・フォー・パフォーマンス・アーツ卒業。'89スカラシップを受け渡米。90香港バレエ団入団。91香港シティ・コンテンポラリー・ダンス・カンパニー入団。94年、Dance Art 香港設立、芸術監督に就く。99、04香港ダンス・アワード受賞。07国家民政事務局より文化芸術発展功労賞受賞。DancingAndy Creative Workshop 芸術監督、Dance Art 香港レジデンス・コレオグラファー。



## 平原慎太郎『アフタートーク』

出演/東海林靖志、平原慎太郎

言葉を使った後の身体と使う前の身体を比べるとという考察。思考が体から抜け空になり殻のようになったその先に訪れるべき身体の動きの考察。発声の発生原を男二人手探りで探る。

1981年北海道生まれ。地元小樽でクラシックバレエを学び始め、ヒップホップ、コンテンポラリーダンスに出会う。2004年から07年まで金森稔率いるノイズムに所属。その後フリーランスに転身し、現在はコンテンポラリーダンスを専門として演出、振付、ダンサーとして活動。「Organ Works」を主宰する他、「コンドルズ」、「C/ompany」、「瞬 project」などのダンスカンパニーで活動するなど国内外問わず広く活動する。2013年度文化庁新進芸術家海外研修員としてスペインにて研修。2011年コリア国際モダンダンスコンペティション、金賞、ベスト振付家賞受賞。2012年度、セッションハウス・レジデンス・アーティスト。



## 鈴木竜 『LA LA LAND』

出演/西山友貴、服部えこ、石橋静河、鈴木竜

和歌山県出身。ジャズダンス、バレエを学び、2005年'07年、名倉ジャズダンス・スタジオ・カンパニーに所属。07年渡英しランペール・バレエ・コンテンポラリー・スクールに留学。在学中ランペール・ダンス・カンパニーの全英ツアーに参加。卒業後フェニックス・ダンス・シアターに入団、主要メンバーの一人として活動。2012年に退団後、ロンド・オリンピック開会式にてアクラム・カーン振付セッションに参加。帰国後、自らの作品を発表すべく SHEEPMAN を結成。フリーランスダンサーとして夏木マリ、平山素子、小尻健太、キミホ・ハルパート、テロ・サーリネらの作品や日韓英共同プロジェクトに参加するなど多彩な活動を展開している。



## 小暮香帆 『Moon Sail』

生まれてから  
ずっとふねにゆられてる  
このふねで  
わたしを月に連れてって

平成元年生まれ。幼少よりモダンバレエを吉田久木子に師事。これまで笠井叡、笠井瑞丈 × 上村なおか、三浦宏之、岩淵多喜子、山賀さくる、新鋪美佳(ほうほう堂)、三東琉璃、かえるPなどの作品に出演。2012年日本女子体育大学舞踊学専攻卒業。同年より本格的にソロ活動を開始、「福岡ダンス・フリンジ・フェスティバル vol.6」、セッションハウス「ダンス花」などに出演。13年秋には初単独ソロ公演「還かエリチェ」を発表。第2回セッションベスト賞受賞。めぐりめぐるものを大切に踊っている。

◆勝部ちこ&鹿島聖子&オリビエ・タルパガ&イ・クワンソクワークショップ◆11月24日開催!このワークショップはコンテンポラリーダンスのテーマとテクニックと共に現代のアフリカン・ダンスの動きを探究していただくものです。そしてまた参加者は廻りにある音やノイズと体の中にある音楽を探究していただくようになります。詳細はweb,チラシで追ってお知らせします!



### 勝部ちこ&鹿島聖子『風の人、土の人』

人は移動する。  
到着する人、迎える人、旅立つ人、見送る人。  
動く、留まる、受け入れる、離れる、...  
人はそれぞれ、その地にとっての役割りがある。

勝部ちこは大阪出身。幼少よりクラシックバレエを学び、大学にてモダンダンスを始める。後、NYヘダンス留学。2000年春にコンタクト・インプロビゼーション(CI)・グループC.I.co.を発足。「ふれあう事から始まるダンス」としてCIの広く深い可能性を追求し、各地でのWS開催や、イスラエル、オランダ、フィンランド、ドイツ、韓国などでも国際企画に参加し、研究・交流活動続ける。

鹿島聖子は千葉県出身。02~04年に文化庁在外研修生としてNYに滞在。帰国後、C.I.co.のメンバーとして活動。2004年度セッションハウス・レジデンス・アーティスト。2012年、鹿児島県伊佐市に移住。3.11以降の人間のありかたを問いながら、芸術と社会の関係を直視し、新たな価値を創造するため、地域と連動する芸術活動を展開中。一方、CIの研究のため海外での活動にも注力。2013年は伊佐市、霧島市、東京でCI国際フェスティバルを開催。即興演劇とのコラボ、知的障害者施設での活動、乳幼児対象のパフォーマンス、などCIの多様性、可能性を追求している。



### オリビエ・タルパガ『Not because you're african』

この作品は、新植民地主義へのアイロニーとフランスの植民地下にあったアフリカの複雑な歴史を探究していくものです。それは詩的な物語とダンスを通して語られ、このソロダンスは移民としての私の生活経験上での出来事にインスパイアされた物語や、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカが入り交じる私の文化的な航海から感じとってきたものを反映しています。

ブルキナファソ出身のダンサー、振付家、ミュージシャン、作曲科、シンガーソングライター。"Disorder Inside Order"でロサンゼルス・ダンス・リソース・センターからレスター・ホートン賞2009受賞。アフリカ、北米、南米、アジア、オーストラリア、ヨーロッパの45以上の国の国際フェスティバル、劇場、大学や学校で音楽とダンスのパフォーマンスやワークショップを行う。オハイオ州立大学、ケニヨン・カレッジ、デニソン大学、UCLAで講師を務めている。



### イ・クワンソク『息する殻』

出演/イ・クワンソク、ホン・ミンジン

ある日の恐怖から食べることも、考えることも、寝ることもできず、闇の中でただただ息をしていた。私を苦しめるものは世相より自分の中により多く存在するものではないだろうか。私とは本当に自分そのものなのだろうか。さもないとまた異なる何かが自分を成しているだろうか。うなされる恐怖とは、私の精神の中にある集団無意識の表れである。そしてこの無意識を回避せず、これを意識の中に登場させて対面することによって恐怖と苦痛から救われることができる。

イ・クワンソク(Lee, Kwangseok) ダンスカンパニーメディアス代表。前「ダンスシアター・オン」主席ダンサー。前「香港市立現代舞踊団」団員。1999年 横浜コンクール最優秀賞、長野舞踊コンクール1等賞。1994年香港国際舞踊コンクール大賞。『天使の曲芸』『闇の中のさかな』『死、幸せな女』など多数の振付作品がある。

ホン・ミンジン(Hong, Minjin)オーストリアでバレエを専攻後、2007年韓国芸術総合学校に入学すると共に創作活動を始める。ダンサーとして活動しながらダンス、映画、ミュージカルで振付を担当。2012年、プロジェクトグループMMM結成と共にマルチメディアと動きを中心とする実験的な作品活動を展開している。

チケット(税込)  
 予約一般 3,000円  
 予約学生 2,800円  
 4公演通し券 10,000円  
 当日 3,500円  
 ご予約はサイト・メール・お電話で承ります。  
<http://www.session-house.net>  
[yoyaku@session-house.net](mailto:yoyaku@session-house.net)  
 03-3266-0461(11am-7pm)

入場料割引  
 「新宿フィールド・ミュージアム」オフィシャル  
 ガイドブック持参者割引(-200円)

番外編 神楽坂まち飛びフェスタに参加!

11月3日(月祭) 13:00~

1999年から神楽坂で続いている「まちの文化祭」、神楽坂まち飛びフェスタ。今年も10/18(土)から開催です。最終日、参加ダンサーのデモンストレーションを行います!詳細は<http://www.session-house.net>でお知らせします。

路地裏の小劇場。  
 東京メトロ東西線神楽坂駅  
 1番出口から地上へ。



照明:石関美穂、久津美太地  
 音響:上田道崇、相川貴  
 舞台監督:外園彩織  
 記録映像:PLASTIC RAINS  
 監修:伊藤直子、近藤良平  
 制作:セッションハウス企画室  
 (伊藤孝、鍋島綾介)  
 後援:  
 神楽坂まち飛びフェスタ実行委員会  
 地域情報誌「かぐらむら」編集室  
 協力:EUジャパンフェスト日本委員会